



公益財団法人長岡市米百俵財団

概要

名称／公益財団法人長岡市米百俵財団
事務所／〒940-0084 新潟県長岡市幸町2-1-1
TEL.0258-39-2238 FAX.0258-39-2271
沿革／昭和62年1月14日 財団法人長岡市人材育成基金設立
平成7年2月3日 財団法人長岡市米百俵財団に改称
平成24年4月1日 公益財団法人に移行
基本財産／7億3,800万円(平成28年10月1日現在)
理事長／牧野 忠昌

【次代を担う青少年の育成】

大学進学者奨学金の貸付け

健康かつ学力優秀でありながら経済的理由で大学での修学が困難な人に、奨学金の貸付けを行っています。

高校留学奨学金の給付

1年間ホームステイをしながら海外の高校に留学する高校生に奨学金を給付しています。

【社会人派遣研修の助成】

中小企業従業員派遣研修の助成

長岡市内に事業所を有する中小企業で働く人が派遣研修に参加する場
合に助成しています。

農業者派遣研修の助成

長岡市内に住む農業者が派遣研修
に参加する場合に助成しています。

【米百俵の精神の普及・啓発】

米百俵デー記念事業の開催

国漢学校新校舎開校の日(明治3年6月15日)にちなみ、毎年6月15日の米百俵デーに、記念事業を行っています。

書籍の頒布

山本有三作・戯曲「米百俵」を収めた「米百俵・小林虎三郎の思想」及びドナルド・キーン英訳の「One Hundred Sacks of Rice」などの頒布を行っています。

【人材育成活動の顕彰】

米百俵賞の贈呈

教育、文化、福祉、スポーツ、産業等の分野において、独創的な活動により、人材育成に大きく貢献している個人または団体に米百俵賞を贈呈しています。

人材育成の財政基盤を確立するため、皆様の御協力をぜひとも
お願いいたします。

お寄せいただいた寄付金につきましては、特定公益増進法人に
対する寄付金控除の対象となります。

〈振込先〉北越銀行長岡市役所支店 普通 119243
財長岡市米百俵財団 理事長 牧野 忠昌

第21回

米百俵賞

公益財団法人長岡市米百俵財団は、
育英百年の大計にたった
郷土の先覚者・小林虎三郎の
遺徳をしのび、その思想を表す
「米百俵」の精神を継承し、
広く普及・啓発を図るため、
人材育成に著しい功績をあげた
個人または団体を表彰します。

公益財団法人 長岡市米百俵財団

小林虎三郎・プロフィール



小林虎三郎 (1828~1877)

文政11年(1828)8月、
長岡藩士 小林又兵衛の三男として生まれる。
幼い時、天然痘で左眼の光を失う。
藩校の崇徳館で学び、若くして助教を務めた。
23歳の時、藩主の命で江戸に遊学。
佐久間象山の門下に入り、
長州の吉田寅次郎(松陰)とともに「二虎」と称される。
象山の横浜開港論を藩主に献言して国元に謹慎。
幽閉生活のなか、教育の重要性を説く「興学私議」を著す。
象山に「天下、国家の政治を行う者は吉田であるが、
わが子を託して教育してもらおう者は小林のみである」
と言わせるほど、虎三郎は教育者であった。
長岡が戊辰戦争に敗れた翌明治2年、
焼け残った昌福寺の本堂を借りて
国漢学校を開校。大参事に推挙される。
米百俵が送られてきたのは、その翌年のことである。
終生を病にさいなまれた虎三郎は自ら「病翁」と称した。
明治10年8月に死去。享年50歳であった。

「育英こそ百年の大計である」と説いた
郷土の先覚者・小林虎三郎の「米百俵」の
思想は、長岡人の心のよりどころであり、大き
な誇りでもあります。長岡市米百俵財団は、
こうした「米百俵」の精神を次代へ受け継ぎ、
発展させるとともに、明日を担う人材の育成
を図ることを目的として設立されたものです。
「この百俵は、今でこそただの百俵だが、後
年には、一万俵になるか百万俵になるか、は
かり知れないものがある」(山本有三・戯曲
『米百俵』より)
小林虎三郎のこの言葉は、まさに本財団の
夢であり、ロマンであります。

公益財団法人長岡市米百俵財団
理事長 牧野 忠昌



これまでの米百俵賞受賞者紹介

- 第1回 中野 信隆(長岡市)
- 第2回 スタニスラヴァ・シュラムコヴァ(チェコ国籍)
- 第3回 新潟国際ボランティアセンター(新潟市)
- 第4回 秋尾 晃正(東京都練馬区)
- 第5回 オーガスティン・アズチマン・アウニ(長岡市)
- 第6回 村上 一枝(東京都武蔵野市)
- 第7回 高橋 一馬(千葉県市川市)
- 第8回 山之内義一郎(長岡市)
- 第9回 南 研子(東京都杉並区)
- 第10回 後藤 文雄(東京都武蔵野市)
- 第11回 ルダシングワ真美(ルワンダ共和国)
- 第12回 駿溪トロペカイ(茨城県つくば市)
- 第13回 バイマーヤンジン(大阪府吹田市)
- 第14回 NPO法人日本ネパール女性教育協会(東京都文京区)
- 第15回 片桐 和子・昭吾(新潟市)
インドのストリートチルドレンのため、子どもたちが安心して眠れる施設「憩いの村」を建設するなど、私財を投じて現地の子どもへの支援活動を行っている。
- 第16回 シルパカラ・アカデミー劇団(バングラデシュ)
バングラデシュでの戯曲「米百俵」の公演を通し、現地で教育の重要性、人づくりの大切さを説く活動を続けている。
- 第17回 小林 茂(長岡市)
アフリカのストリートチルドレンの生き様を描いた「チョコラ」や新潟水俣病の被害者家族が遅く暮らす様子を描いた「阿賀に生きる」等の映画制作や講演活動を通して、教育、福祉などの問題を広く発信している。
- 第18回 内藤 眞(新潟市)
ミャンマーの医療関係者育成のため、ミャンマーと日本の医学生、医師同士の交流の促進を図り、両国大学間での共同研究ができる体制を整えた。また、インフルエンザ研究拠点の設立に尽力し、研究機会の提供と医療の質の向上に貢献している。
- 第19回 斎藤 惇夫(埼玉県さいたま市)
自身の体験から、子どもたちが心豊かな人間として成長するためには、幼少期の本の読み聞かせが大切であると考え、大学生、子育て世代、学校関係者等への講演活動を通じて、「子どもたちに本を読んでやることの大切さ」、「優れた物語を選ぶことの大切さ」を伝えている。

※受賞者の()内は、受賞当時の居住地等を表示

第20回米百俵賞受賞者

NPO法人インクルいわて
(岩手県盛岡市)



NPO法人インクルいわては、ひとり親家庭の子どもの貧困率が高い現代日本で、東日本大震災のためにシングルマザーとなった女性をはじめ、ひとり親に就職のためのスキルを習得させるだけでなく、家庭との両立支援や子どもへのケアなど、複合的な支援活動を行っている。

平成24年10月から半年間、震災により影響を受けた女性及びひとり親を対象に、就労支援、生活支援、子育て支援を組み合わせた包括的就労支援を実施。スキルの習得のみならず、ひとり親家庭ならではの生活面や子育てサポート、心のケアも包括的に実施し、事業期間経過後も継続的に支援している。その結果、6人の対象者のうち4人が就労し、そのほかにも簿記資格を取得し本格的に就職活動を開始する等、全員が社会参加を果たした。

このほか、ひとり親家庭への継続的な支援として、ハンドケアを行いながら各種の相談に応じるリフレッシュ・エンパワメント事業、親子が一緒に楽しめる季節の企画や習い事を体験できる「おひさまくらぶ」事業を実施している。また、ひとり親家庭の支援に携わる異なる分野の人々を対象とした「ひとり親家庭支援者養成講座」を開催し、多角的な支援の視点を身に付けた支援者の育成にも力を注いでいる。

インクルいわての活動は、ひとり親家庭の社会的な自立を支援しているのみならず、地域に居住する外国籍者やセクシャルマイノリティへの支援など、すべての人にとって生きやすい包摂された社会の実現を図っている。



活動の様子

「米百俵」の故事

戊辰戦争に敗れ、焦土と化した長岡藩に、支藩の三根山藩（現在の新潟県新潟市西蒲区峰岡）から見舞いとして百俵の米が送られてきた。窮乏を極めていた藩士は米が分配されるのを一日千秋の思いで待った。しかし、藩の大参事・小林虎三郎はその米を家中に配分せず、文武両道に必要な書籍、器具の購入にあてるとして、米を売却した代金を国漢学校設立の資金に注ぎ込んだ。国漢学校には、洋学局、医学局も設置され、藩士の子弟だけでなく町民や農民の子供の入学も許された。ここに長岡の近代教育の土台が築かれ、後年、ここから新生日本を背負う多くの人物が輩出された。この「米百俵」の故事は、戦時中の昭和18年（1943）文豪・山本有三の同名の戯曲によって広く知られるようになった。平成13年5月、小泉首相の所信表明演説に取り上げられ、同年9月に東京歌舞伎座で二度目の上演が行われた。「国が興るのもまちが栄えるのも、ことごとく人にある。食えないからこそ学校を建て、人物を養成するのだ」という小林虎三郎の思想は、今も多くの人に深い感動を与えている。



953円
(税別)

書籍「米百俵 小林虎三郎の思想」



953円
(税別)

書籍「One Hundred Sacks of Rice」
(英語版米百俵)



1,100円
(税別)

アニメDVD「長岡の侍～米百俵～」



286円
(税別)

書籍「米百俵 小林虎三郎物語」



1,429円
(税別)

書籍「米百俵 - その先の未来へ -」

第21回米百俵賞 募集要項

■ 対 象

教育、文化、福祉、スポーツ、産業等の分野において、独創的な活動により人材の育成に大きく貢献し、「米百俵」の精神を今に体现する個人又は団体。表彰は、原則として1名又は1団体とします。（国籍、居住地は問いません。）

■ 賞

表彰楯、副賞（賞金100万円）

■ 募集期間

平成28年10月1日から平成29年1月13日まで

■ 推薦方法

所定の推薦書により、長岡市米百俵財団事務局に推薦してください。自薦、他薦は問いません。

■ 選考方法

推薦のあった個人・団体の中から長岡市米百俵財団の米百俵賞選考委員会において受賞者を選考します。

■ 選考委員

委員長 関川 夏央(作家)

委 員 荒木 正(元長岡市立阪之上小学校長)

佐竹 直子(NPO法人多世代交流館になニーナ代表)

水流潤太郎(公立大学法人長岡造形大学理事長)

矢澤 康子(長岡商工会議所女性会理事)

■ 選考結果

平成29年3月下旬に受賞者を決定します。

■ 表 彰

平成29年6月開催予定の「米百俵デー市民の集い」で表彰します。

■ 推 薦 先

公益財団法人長岡市米百俵財団事務局

〒940-0084 新潟県長岡市幸町2-1-1

長岡市教育委員会教育総務課内

TEL.0258-39-2238 FAX.0258-39-2271

E-mail kyoso@kome100.ne.jp

U R L <http://www.city.nagaoka.niigata.jp/kurashi/cate12/kome100zaidan/>